

海外研修 韓国 (9月5日~10日) ・ 中国 (9月5日~12日)



CONTENTS

- | | | |
|--|---|---|
| <p>1 海外研修 韓国・中国</p> <p>2 韓国での5日間
中国での海外研修を終えて</p> <p>3 ハルビン理工大学の客員研究員紹介
ウィンドサーフィン実習</p> <p>4 職業実習を終えて</p> <p>6 職業実習報告会を終えて</p> | <p>7 「住宅設計コンペ」「学内福祉施設設計コンペ」等の受賞者作品に対する裏側をインタビュー!!
ロボカップ世界大会</p> <p>8 一射入魂!
バド部近況報告
県都市対抗駅伝に出場して</p> <p>9 卒業生が新潟アルビA2のメンバーに
What is Lifesaving?
教員父母連絡交流会を開催</p> | <p>10 卒業生の職場を訪ねて⑧
化学工学会の優秀論文賞を受賞</p> <p>11 平成17年度公開講座、全日程を終了
上越地域産学技術交流会を実施</p> <p>12 オープンキャンパス・科学の祭典とともに大盛況
編集後記</p> |
|--|---|---|

韓国での5日間

機械制御システム工学科 3年 板谷大輔

(新潟県立柏崎工業高校出身)

今回、韓国での研修旅行を通して、とても貴重な体験ができました。

まず、ソウルに到着し、バスに乗ったときに感じたことは、車と車の間隔が非常に狭く、さらに道がガタガタしてとても驚きました。また、無理やり車線変更してくる車が多くて少し怖かったです。



他にも驚いたのは料理の辛さでした。自分は辛いものは好きなほうなので韓国での食事を楽しみにしていましたが、実際に食べてみるとその辛さは予想以上で、店の人にトウガラシのようなものを勧められて食べてみると、辛いというより、舌に痛みを感じました。そのトウガラシ以外は辛かったけど、とてもおいしかったです。これが1日目に感じたことでした。

2日目は建国大学の李先生の案内で大学見学をしました。建国大学はとても敷地が広く、大きな池もあり、大学という感じには見えないくらい立派でした。また、学生との交流もあり、緊張して戸惑っていた僕たちに気軽に声をかけてくれて、緊張がほぐれて仲良くなれました。韓国語がわからない僕たちに、わかりやすい英語で一生懸命にコミュニケーションをはかろうとする彼らにとっても感動しました。

3日目は企業見学ということで、三星電子を訪問しました。ここを見学して初めてわかったことは、韓国にはキムチ専用冷蔵庫があるということです。キムチは普通の冷蔵庫の中に入れると味が悪くなることと、他の食材に匂いが移ってしま

うために専用のものがあるということに驚きました。

4日目は自由行動で、まず、昌徳宮という宮殿を見学しました。これは国王がしばらくの間、移って生活する宮殿として建てられ、多彩な東屋、池、樹木、岩や石が一体になっているきれいなところでした。夕方からは、ナンタという台所にある包丁やまな板などのいろいろな道具を使って独特なリズムを刻むミュージカルを見ました。これはコックとマネージャーという役割で、ストーリーが面白く、不思議なリズムがとても合っていて楽しかったです。

5日目は、板門店の統合警備区域を見学しました。そこは、韓国と北朝鮮との軍事境界線があり、そこでは、手招きをしてはいけない、走ってはいけない、荷物を一切持ち込んではいけないなど、他にもたくさんの制限があり、とても緊張しました。

この研修旅行で、韓国の歴史や文化を学ぶだけでなく、韓国の人たちとの親睦を深めることができました。また、機会があれば行ってみたいと思います。



[関連URL <http://www.niit.ac.jp/news/2005/korea05.html>]

中国での海外研修を終えて

物質生物システム工学科 4年 上野 裕子

(栃木県立真岡女子高校出身)

今回の海外研修に参加して、まずは本当に楽しかった、そして人生の良い経験になった旅であるということをおきたいと思えます。

今回の海外研修(中国)は9月5日(月)～9月12日(月)の8日間の日程で行われ、前半を中国の首都である北京、後半をハルビン理工大学のある東北のハルビンで過ごしました。中国の長い歴史に触れ、文化に触れ、そして中華料理をこれでもかというほど満喫した8日間でした(笑)。



北京では、万里の長城・天安門広場・故宮・定陵・天壇公園・頤和園など多くの名所旧跡をめぐりましたが、中でも一番思い出に残るのは、万里の長城です。思っていたよりも高い山の上にある万里の長城で、2時間以上の見学時間を取ってもらえたので、道のりが急で最大斜度90度もあるところもある「男坂」と、男坂よりは緩やかだけれど距離が少しある「女坂」の両方を登ることができました。天気もよく、陽射しも強い日だったので、本当に汗だくになりながら楽しく登り、上からの絶景を楽しみました。

また京劇や雑技の見学も行い、特に中国雑技団の公演は素晴らしいものでした。獅子舞に扮した人の玉乗りから始まり、軟体バランス、綱渡りアクロバット、布を使った空中浮遊など多くの演技がありましたが、中でも凄かったのはやはり最後に行われた自転車の演技だと思います。自転車で規則正しく並んで走ったり、バランスを取りつつ走ったりするのも良かったですが、何より最後の1台の自転車に12人乗る演技は誰もが拍手と歓声を送らずにはいられないほど素晴らしいです。北京の美人ガイドの張(チョウ)さん、名運転手の馬(バ)さんにはこれら各名所旧跡の見学には大変力を尽くしてくれ、本当に感謝しています。

そして楽しい見学を終え、北京駅から寝台列車でハルビンまでの移動です。北京駅の雑踏は田舎育ちの私には慣れないもので、張さん達のご好意でトランクをホームまで運んでいただいて本当に良かったとつくづく思います。おっかなびっくりの北京駅構内から寝台列車のホームへ抜け、そして4人1キャビンの寝台列車でいざハルビンへ。寝台列車で移動というのも初めての体験でしたので楽しかったです。

ハルビンでは、太陽島公園・東北虎林園・索非亜教会堂・龍塔・開発区などの場所の見学を行い、またメインであるハルビン理工大学の見学や交流会を行いました。名所旧跡の見学も大変興味深く、大変勉強になるものでしたが、今回の旅で一番思

い出に残ったのはやはり向こうの現地学生との交流です。交流会ではそれぞれ日本と中国の学生生活の同じところや違うところ、そしてどんな勉強をしているか、どれくらい時間を取って勉強をしているかなど意見交換を行ったり、工科大の学生が「マツケンサンバ」や「日本の昔の遊び（折り紙、けん玉、こま）」などを紹介したりと和やかな雰囲気での交流が行われました。その後の食事会では日本語学科の学生さんの見事な日本語の歌が披露されたり、引率の先生方の美声が披露されたり（笑）と大変盛り上がりました。また、別の日に行われたソフトボール大会では偶然訪問していた神戸大学農学部との学生さんと一緒にソフトボールの試合を楽しみました。スポーツを通して日本と中国、お互いに交流を図れたと思います。

先生が「『北京の名所を見るよりもハルビンの交流会の方が楽しい』と前の研修生が言っている」というのがよくわかるほど、とても中国の学生との交流は楽しいものでした。

今回の研修では途中で1人の航空券が無くなるというハプニングがありましたが、現地ガイドや先生方の素早い対応で、無事、全員一緒に帰国することができ、本当に良かったと思います。

ます。ハルビンでのガイドの岩（ガン）さん、そして全日程一緒に回ったハルビン理工大学の劉（リュウ）先生、そしてこの研修旅行を支えてくださった多くの方々に本当に感謝したいと思います。今回の研修旅行は私にとって素晴らしい思い出になったと共に、素晴らしい経験としてこれからの人生に役立てていけたらと考えています。

最後に、一緒に旅行した皆様、海外研修を企画・運営してくださった方々、すべての方に感謝し、お礼を言いたいと思います。本当にありがとうございました！！



ソフトボール試合終了後（神戸大学農学部・ハルビン理工大学の学生たちと一緒に）
[関連URL <http://www.niit.ac.jp/news/2005/china05.html>]

ハルビン理工大学の客員研究員紹介



このたび、ハルビン理工大学から張 春喜 (Zhang Chunxi) 先生を客員研究員としてお迎えしました。張先生の自己紹介とメッセージをお届けします。

My name is Zhang Chunxi. I'm the sixth visiting scholar from Harbin University of Science and Technology. I have a Doctoral degree in Engineering.*1 My major is Power Electronic Technology.*2 During 10 months visiting research period, I will work together with professor Kaizu and associate professors of Watanabe and Sato.

This is the first time for me to come to Japan. I'd like to tell you my two impressions about this trip. One is the traffic rules here are opposite to that of China. All cars should run along with the left side of the road, and the driver sits at right side in the car. Another impression is that though the Kashiwazaki city is small, it is clean, near

mountain and sea. So it has a very well-balanced natural condition. Though the NIIT is small, your university is quite advanced well equipped with facilities and in active academic atmosphere. So I think I'll have a quite pleasant life here.

I like swimming, climbing mountains, and playing ping pong. Besides, I'd like to have more friends here. You can contact me by email at zhangchunxi_zcx@yahoo.com.cn.

*1Doctoral degree in Engineering 工学博士号

*2Power Electronic Technology 電力工学

ハルビン理工大学から学術交流団が来学

同大学と本学では1年おきに交流団を派遣し、相互理解と親睦をはかっています。今年もハルビン理工大学から学術交流団5名(団長:魏新勇副校長)が来学し、11月20日(日)から24日(木)まで、本学施設や市内の企業を視察するほか、教職員との技術交流公開シンポジウムを行う予定です。

ウィンドサーフィン実習

昨年に続いて2回目となるウィンドサーフィン実習が8月30日(火)、31日(水)、9月8日(木)の3日間、市内中央海岸で行われました。



機械制御システム工学科 1年
金子 正純
(新潟県立新潟工業高校出身)

私は大学に入って普段できない体験は、どんなことでも積極的に挑戦してみようと思い、今回のウィンドサーフィンの実習を選択しました。最初に陸の上で乗り方を教えてもらったのですが、いざ海上でマストを起こすと海の上では抵抗がないため、

下に力がかかるとボートは浮いているのに自分は徐々に沈んでいる感じに襲われ、陸でやった以上に力が必要で、腕がパンパンになっていました。初心者の私には風があまり強くない日かととてもやりやすく、最初の2日間はとても助かりました。3日目、台風の後ということもあり、風が強く、波もあり皆苦労して乗っていました。

私はこのウィンドサーフィンを通して、自然と楽しむことの面白さがわかったような気がしました。機会があればまたやってみたくと思っています。



[関連URL <http://www.niit.ac.jp/news/2005/windsurfin.html>]

職業実習を終えて

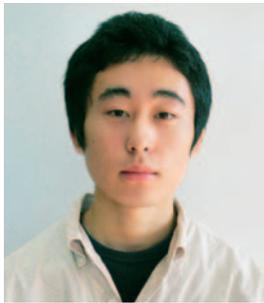


機械制御システム工学科 3年
本間 智丈
(新潟県立長岡高校出身)
日本精機(株)(長岡市)

今回、私は日本精機株式会社で職業実習に行ってきました。実習は、“見返し”と呼ばれているものにガラスをセットする

見返しガラスセット、スピードメーターの基盤に走行距離をリセットするレバーを取り付けるノブセット、カラーと呼ばれる文字盤を固定する部品がはまっているかを検査するカラー高さ検査を行いました。

これらの実習を通して得たことがたくさんありました。その中の1つが自信です。今までアルバイトを含めて働いたことが全くなく、仕事とはどのようなものなのか分からず、不安でした。しかし、実際に工場で働いてみると、初めは時間のかかっていた作業が、慣れてくると短時間でできるようになり、それまで感じていた不安がなくなり、自信ができました。他にも様々なことを学んだので、今後の進路に役立てたいと思います。



情報電子工学科 3年
富所 雄太
(新潟県立見附高校出身)
(株)アドテックエンジニアリング
(長岡市)

私が実習させていただいたアドテックエンジニアリングの製造課では、フライスやマシニングセンタなどの金属加工機を用いて、精密金型の製作などを行っています。

実習では、まず、加工品の検査に用いるノギスなど、主な測定器の使い方や製図の見方などの基礎的な事柄を教わりました。機械加工の知識が殆どなかった私でしたが、丁寧に教えていただき、十分に理解することができました。基礎知識をさせていただいた後、「工作物の面取りやバリ取り」や「マシニングセンタを用いた工作物の加工」などの金属加工を行いました。工作物の面取りとバリ取りを行うのは、工作物の角で怪我をしないようにするためと、正確な加工をするためで、できるだけ綺麗に短時間で仕上げるように心がけました。最初は、なかなか綺麗に仕上げるのが難しく、時間が掛かっていましたが、次

第にコツをつかんで、短時間で綺麗に仕上げることができるようになり、とても嬉しかったです。このような作業のほかにも、名刺の整理などの事務作業を行いました。また、1日の作業を終えると、必ず自分が作業した機械の周りを掃除します。普段からの整理整頓も心がけていました。

実習を通して様々なことを学び、得ることができました。機械加工の知識や技術を得たこともそのひとつですが、「働く」ことのイメージを持てるようになったことで、私が将来やりたいことが見えてきたことが最も大きな収穫となりました。



物質生物システム工学科 3年
古藤 留衣
(群馬県立前橋西高校出身)
東京電力(株)柏崎刈羽原子力発電所
(柏崎市)

『電気を大切に』そんな言葉を身近で聞く日々の生活の中、

本当に電気の大切さを身にしみて感じる体験を、この夏私はしました。授業の一環である職業実習に、かねてからの希望であった東京電力へ2週間の研修へ行ってきました。大学では化学や生物の専攻をしている私にとって、見るもの全てに驚く世界でした。まず原子力発電の仕組みについて触れることからがこの研修の始まりでした。実際にタービンという機械の中で電気が作られているので、誰一人出来ている過程が見られるわけではないので、目に見えない世界を見えるかのように話す講義についていくのは大変でした。そして、社員以外入ることができない現場に入れていただいたりと貴重な

体験をしました。やはり、放射能を扱う危険な中、仕事をしている社員の人を見ると凄くと思いました。誰一人として欠けてはいけなく、彼等が仕事が危険だからと言って仕事を放り投げてしまったら、ここから送られた電気を使う人々は日常生活を送れなくなってしまいます。

私たちの生活と電気がどれだけ深く関わっているかということ、中越地区に住む人々は1年前実感したと思います。地震で停電中、信号もない、ご飯も炊けない、電話もできない、夜になると真っ暗で不安な世界が広がる、電気がないということがどれだけ大変かと新潟県中越地震のとき思い知らされました。なのに、電気が使えるようになると、あの時の電気の大切さ、電気を作る人の気持ちなど私たちは忘れ、温かいご飯を食べ、好きな時に電話を使い、スイッチ1つで明かりが灯り、豊かで幸せな日々を当たり前とと思っています。熱い現場で汗を掻きながら、命をかけてまで電気を作る社員を本当にかっこいいと思い、彼等こそが縁の下の力持ちだと思いました。ここで、24時間体制で命をかけてまで作った電気は、瞬きをした瞬間、もう関東の人々に使われてしまっています。その電気が、もし誰も見ていないテレビや消し忘れた部屋の電気に使われていたと考えると本当にやるせない気持ちにな

ります。まだ余震が続く中、地震があるたびに原発がある私たちは不安になりますが、本当に安全であるということも2週間で知りました。私は仕事というものがどんなものかを知るためにこの研修に参加しましたが、多くのものを学び、そして、何よりも原子力発電所は安全だということと電気を大切にしたいということ、ひとりでも多くの人たちに伝えていかなくてはいけない任務が私たちにはまだあると思いました。2週間という期間の中で成長した夏でした。



建築学科 3年
関 珠美
(新潟県立三条工業高校出身)
(有)富岡産業(三条市)

私は8月22日(月)～9月2日(金)までの2週間、畳づくり・内装の会社にお世話になりました。毎朝7:45～18:00までの勤務でしたが、毎日18:00に終わることはなかったです。毎日忙しく大変でしたが、充実した2週間でした。

私はそこで、たくさんの経験をさせていただきました。実習1日目はセブンイレブンの内装工事に行ってきました。そこでは、床タイル貼りをしてきました。ただタイルを貼るだけではなく、まずは床をきれいに掃除し、ほこりが無くなったならタイル用のりを床に流し、平らにします。その後正方形の床タイルを1枚1枚手作業で丁寧に貼っていきます。最後にのりとタイルの間に入った空気を抜くため、約50Kgのローラーをかけ完成です。コンビニなどの建物はすぐに出来上がるイメージがあり、こんなに大変で思っていたよりも時間がかかって驚きました。

ほかにも障子や襖の張り替え、パテ、畳づくりなど、いろいろなことをさせてもらいました。

私は現場ではパテをさせてもらいました。壁紙もただ貼るだけではなく、まずは下の壁を平らにしなければなりません。例えば壁を大工さんが造り、それをビスで留めます。ビスが付いている部分は凹凸があるので、そこを泥のようなもの(パテ)

で平らにします。乾いたら今度は仕上げパテを上から塗ります。2度塗りすることによって下地を綺麗にし、壁紙を貼りやすくし、仕上がりが綺麗になります。そのためにするのがパテです。パテをしてみて、私は職人技がどれだけ綺麗で、早く、丁寧が身をもって体験できたと思いました。

私はこの夏休みはとても充実していました。実習が始まる前は2週間はとても長いと思っていたのですが、いざ実習をしているとあっという間で、最終日は「まだ実習をしたい」と思いました。スタッフの人とも仲良くなれ、現場や会社のことなどためになる話がたくさん聞けました。社長さんともいろいろな会社を回らせていただいたり、お客さんのところに一緒に行かせていただいたり、会社や将来のことなどたくさん話ができて、とてもいい経験になりました。スタッフと社長の関係もとても良く、仕事をしていく環境がとてもよかったですと思いました。毎日忙しく、仕事が終わりに家に帰るとぐったりし、寝るだけの2週間でしたが、次の日がとても楽しみで、明日も朝から頑張ろう!!という気になり、とても楽しい実習でした。また、現場に出られたという経験は在学中はなかなかできないことなので、夏休みを削ってでも実習をしてよかったです。社会に出るだけでもたくさん学ぶことができ、このような機会がまたあるのなら、ぜひ次も参加してみたいと思いました。



職業実習報告会を終えて

情報電子工学科

情報電子工学科の平成17年度職業実習報告会を11月2日（水）に開催しました。今年度職業実習を履修した学生は23名、受け入れて頂いた企業は16社でありほぼ例年通りの実施状況でした。企業の内訳は製造業が14社、サービス関係が2社となっており、これらの企業にはほぼ毎年決まった人数を受け入れて頂いています。また、今年度は留学生のジャンパット君が自ら栃木県の実習先を開拓し、そちらで熱心に取り組んだ実習を立派な報告書にまとめて提出したことが印象的でした。

情報電子工学科の職業実習報告会は昨年度に続いて2度目になりますが、報告会での実習生の様子は堂々としており、内容も実習で学んだ事柄や後輩へのアドバイス等的確にまとめられていました。何よりも、実際に企業

の中で社員の方々と一緒に仕事を出来たことが自信に繋がり、必ずや職業実習が今後の勉学や職業選択に活かされるであろうことを感じさせられました。

この職業実習の準備は2年生の年度末から始まりますが、この時に行う履修希望調査では例年実際に履修する人数のほぼ倍程度の学生が希望と答えています。しかし、3年生に進級した時点で種々の事情から希望者が減り、更に受け入れ先企業と学生の調整をする段階で数名の学生が余儀なく実習を断念しています。これらの学生の希望を叶え、この有意義な職業実習を1人でも多くの学生が履修出来るようにするのがこれからの課題です。

最後に職業実習に際してご尽力を頂いた企業の方々をはじめ、関係各位に深く御礼申し上げます。

(情報電子工学科 教授 角山正博)



建築学科

10月14日（金）に建築学科3年生による職業実習報告会を開催しました。職業実習は、毎年、夏休み期間中に実施しているインターンシップ制度で、今年は8月22日（月）から9月2日（金）の2週間で行いました。建築学科における職業実習の履修者は41名で、実習先は28社でした。実習先の業種は国土交通省北陸地方整備局、新潟市役所、柏崎市役所、ゼネコン、設計事務所、工務店、設備関係、メーカー等の大半が建設関係であり、実習内容は施工現場（住宅、高校等）での現場管理、設計計画およびCAD、金属加工、木材加工等の多岐にわたっています。また、建築学科での実習先に対する指導は自己開拓を原則としており、全体の3分の2の学生が自分で開拓しました。したがって、自己開拓した学生のほとんど

が自分の親または親類縁者の方々に指導を受けたこととなります。実習期間が終了した後に学生に感想を聞いてみると、全員が実習を無事に終了し、ほとんど全員が有意義な経験ができたと言っていました。

受け入れ先企業の学生に対する配慮は大変行き届いており、その実習内容に関して、我々教員が見習わなければならないが非常にたくさんあるようです。学生は実社会を垣間見ることができ、また、受け入れ先が親の場合には、経営者として違う観点からの親の姿が見られて、大きく成長できたのではないのでしょうか。今後、この職業実習を全員の学生が受けられるように建築学科として努力していきたいと思えます。

(建築学科 助教授 中野克彦)



報告会当日の様子とプレゼンテーションの一部です。全員分を掲載したいところですが、紙面の都合とアニメーションをお見せできず残念です！

「住宅設計コンペ」 「学内福利施設設計コンペ」 等の受賞者作品に対する 秘裏側をインタビュー !!

建築学科 2年 清水 靖子
(新潟県立見附高校出身)

このコンペは2005年7月15日(金)～
20日(水)に柏崎市立図書館(ソフィアセン
ター)展示ホールにて行われました。



[関連URL <http://www.niit.ac.jp/abehtml/iinolab/compe2005/compe.htm>]

ロボカップ世界大会



ロボット研究部
機械制御システム工学科 3年
小林 隆浩
(新潟県立柏崎工業高校出身)

私たちロボット研究部は、大金研究室と共同で「NIT-BLUE」というチームでレスキューロボットを開発しています。今回、このチームで7月13日(水)から19日(火)に開催されたロボカップ2005大阪世界大会のレスキューロボットリーグに参加しました。レスキューロボットとは地震などの災害地で、人間による捜索活動では二次災害が心配されるような状況で人間に代わって捜索活動をするためのロボットのことで、ロボカップ・レスキューロボットリーグは、このレスキューロボットの研究開発を促進するための競技会です。競技内容は地震による大規模災害地を模した会場に被災者に似せたダミー人形が配置してあり、それを時間内に多く探し出すというもので、人形が発する声、熱、二酸化炭素(呼吸)の有無、そして災害地の通路、障害物、被災者の位置などの地図をより詳細に、より正確に作ることで高い得点を得ることができます。この時ロボットの操縦者は会場を直接見ることができない遠隔地からロボットを操作しなければいけないため、操縦者はロボットに搭載したカメラやセンサ情報を見ながら競技を進めていくことになります。

ロボットは各チームによって形も機能もさまざま、力強く高い走破性でどこまでもいけるようなものや、操縦者の操作をほとんど必要とせず、周囲の様子や被災者の位置を記した地図

を自動で作成する半自立型のものもありました。操縦者の技量を問わず、誰にでも扱えるということでこういったロボットは高い評価を受けていました。私たちのチームのロボットは走破性に重点を置いた機体で力強く進むため動作が少し遅く、段差や階段を乗り越えるため複雑な機構をしているのでその分操作も複雑です。私は車体製作と操縦を担当しているので、うまく動かすためには練習が必要でした。今年5月にあったロボカップUSオープンではロボットの高い走破性を活かすことができ、よい成績を残せましたが、今回の大会ではアメリカ大会に比べ全体的に会場が広く複雑だったため、ロボットを慎重に動作させた結果平坦な場所での移動にも時間がかかってしまいました。そのため準決勝までは進みましたが上位にはくい込めず、24チーム中8位という結果に終わりました。今回の結果から、自動で地図を書くオートマッピングや、操作方法の簡略化、短時間で広範囲を探索できるだけのスピードが今後の課題になると考えています。

今私たちは、これらの課題をクリアするような、今回とは別のロボットを考えています。来年は5月に北九州で2006年ジャパンオープン、6月にドイツで2006世界大会が行われます。今までのロボットの優れた個所や先輩たちの技術を活かせるように、次の大会もがんばっていきたいです。



[関連URL <http://lab.ooga.net/blue/>]

一射入魂!

弓道部 部長 下條 真輝

(機械制御システム工学科 2年 新潟県立安田高校出身)

弓道部は柏崎市武道館にて日々練習に励んでいます。県内の大会にも積極的に参加し、多くの成績を残しています。

弓道部は昨年から、新潟産業大学弓道部と合同で「潮風杯争奪弓道大会」という新しい大会の企画を行ってきました。この大会には長岡技術科学大学弓道部を始め、多くの弓道部、弓道連盟が参加してくれました。今後はこの大会をより盛り上げ、自分たち自身の活動も盛り上げていきたいです。

今年度の主な大会成績は下記のとおりです。

柏崎市弓道遠的大会 個人 優勝
 県下弓道新発田大会 一般男子の部 個人 2位

柏崎市市民武道大会

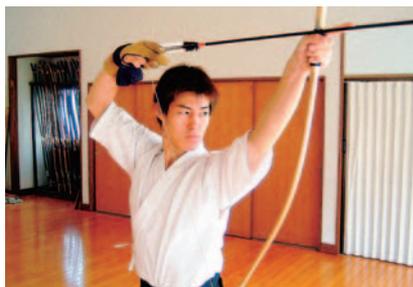
遠的 優勝
4位

近的 3位

総合 優勝

潮風杯争奪弓道大会

個人 優勝
2位



バド部近況報告

バドミントン部 部長 堀川 一樹

(建築学科 3年 新潟県立新潟工業高校出身)

バドミントン部は、昨年「部」に昇格し、さらに新入生も入り、練習にもますます力が入っています。地域との交流も盛んで、近隣の高校生との練習や強化練習会での指導、その他にも柏崎バドミントン協会の役員もしており、柏崎市でのバドミントン大会の運営をしたりといろいろ取り組んでいます。

現在、入部希望者を募っています。部員は少ないですが、各種大会で好成績を残せる内容の濃い練習をおこなっています。やる気のある方、特に経験者の方、気軽に大学の体育館に見学にお越しください。

今年度の主な大会成績は下記のとおりです。

春季北信越大学バドミントン選手権大会 (団体戦) 2部 3位
 シングルス選手権大会 Aクラス 五位野 博貴 3位

ダブルス選手権大会 Aクラス 長島・内山 3位
 五位野・小森 3位
 Bクラス 小黒・堀川 優勝
 会長杯 (団体戦) 3位
 総合選手権大会 シングルス 五位野 博貴 3位
 ダブルス 五位野・阿部 3位



県都市対抗駅伝に出場して



陸上競技同好会

伊部 達也

(情報電子工学科 2年 新潟県立柏崎工業高校出身)

県縦断都市対抗駅伝競走大会には、高校生の時も出場経験があり、去年も出場する予定でしたが、新潟県中越地震のため中止になりました。今回は、柏崎市チームの練習にも参加し、様々な大会や記録会で結果を残したことにより、再び出場が決まりました。

大会中止となった去年のこともあり、精一杯走りましたが、

目標の8位入賞には届かず、悔しい思いです。これを機に気持ちを新たに、次回に向けて頑張っていきたいと思います。

第58回県縦断都市対抗駅伝競走大会

10月22日(土)、23日(日)

結果 全27チーム

柏崎市:1日目 14位、2日目 15位 総合 15位

出場区間:2日目 11区 (三条~加茂) 8.9Km

記録 30分11秒 区間14位

柏崎マラソン 11月6日(日)

男子ハーフマラソン 8位

記録 1時間17分3秒



第58回県縦断都市対抗駅伝競走大会より

卒業生が新潟アルビA2のメンバーに



今年の春、機械制御システム工学科を卒業した佐藤哲宏さんが、今シーズンの新潟アルビレックスのA2（サテライト）に入団しました。佐藤さんは、工科大学に在学時から県選抜に選ばれるなど、すばらしい活躍をしていました。

佐藤さんに、コメントを頂いてきました。「バスケのプロになることが自分の夢だったので、夢に

一歩近づけて嬉しい。A2で頑張ってトレーニングし、早くA1でプレーするのが目標です。今、こうしてバスケが出来るのも家族の理解と今までお世話になった方々がいたからだと思います。とても、感謝しています。」

（写真提供：㈱新潟スポーツプロモーション）

（聞き手：建築学科 3年 西山 紗香）

What is Lifesaving ?

情報電子工学科 2年 相田 匡則

（山形県立鶴岡工業高校出身）

第31回全日本ライフセービング選手権大会

男子2kmビーチラン

49位

工科大に新たなサークルとしてライフセービングクラブを立ち上げました。柏崎には、全国でも有名な柏崎ライフセービングクラブ、新潟産業大学ライフセービングクラブがあり、活発に活動しています。

ライフセービングと言われてもなかなかメジャーなスポーツではないのでここで紹介したいと思います。ライフセービングは水辺の事故をなくすことを目的とした活動であり、事故防止のための監視や指導、救助、一般への教育やライフセーバーの技術向上のための競技等の全てを指す言葉で、誰もが参加できる活動です。たとえ泳げなかったり身体的ハンディーキャップがあろうとも、社会奉仕と博愛の精神に基づき、人命救助の為に活動すること、すなわちそれがライフセービングです。

■ 大会報告 ■

第18回全日本ライフセービング種目別選手権大会

男子2kmビーチラン 18位

第20回全日本学生ライフセービング選手権大会

男子レスキューチューブレスキュー 6位入賞



■ メンバー募集 ■

何事もやってみなければわかりません。ことライフセービングに関しては言葉では言い表せない部分が多すぎます。ほんの少しでも興味があればぜひ参加してみてください。みなさんの積極的な参加、お待ちしております。

また私たちのクラブは年間を通してメンバーの募集を行っていますので、いつでも練習を見に来てください。

入部希望者は、情報電子工学科の伊藤助教までお願いします。

■教員父母連絡交流会を開催

平成17年度教員父母連絡交流会が9月3日（土）に開催されました。朝から激しい雷雨に見舞われ、あいにくの天候での開始となりましたが、徐々に回復し昨年を上回る約400名のご父母からご出席いただきました。

同会は、学生の保護者を会員とする「新潟工科大学後援会」の主催で毎年1回開催されているもので、学科ごとに実施する「学科別連絡交流会」と全体会の2部構成となっています。学科別連絡交流会では個別面談が行われ、前期成績表を基に教員が1人ずつ丁寧に大学での生活ぶりなどを伝えています。また、全体会では後援会や大学の近況報告と特別講演が行われています。

今年度は、株式会社広報しえん代表取締役の土田一様を講師に迎え、「わが子の就職を考える～間違いない就職サポートをするために～」と題して、就職に

関する講演会を開催しました。約1時間にわたり、採用者側（企業側）の考え方や家庭内でのサポート等について事例を交えて講演いただき、参加者からも大変参考になったとの感想をいただきました。

このような交流会を実施している大学は全国でも少なく、きめ細やかな教育を掲げる本学を象徴する行事となっています。今後も大学と父母との密接な関係の構築に努力していきたいと思っています。



卒業生の職場を訪ねて⑧



株式会社酒井鉄工所

渡邊祐一さん

(機械制御システム工学科 2004年3月卒業)

今回は市内田塚の工業団地内にある、株式会社酒井鉄工所に勤めている渡邊祐一さん（製造部マシニンググループ・製造部技術グループ兼任）を訪ねてみました。

渡邊さんは2004年3月に本学・機械制御システム工学科の寺島研究室を卒業していますが、職場が大学の近くにあるという利点をいかして、新しいプロジェクトに携わる際に大学に相談や下調べに来てくれるほか、車などの趣味が共通していることから、個人的にもしばしばお会いしています。

・・・今日はお忙しいところ、お時間を頂まして済みません。

渡邊：いえいえ、こちらこそ宜しくお願いします。

・・・早速ですが、どのような仕事をしているか教えてください。

渡邊：簡単に言うと機械加工なのですが、ウチの会社に来る注文は、加工が面倒な製品や、他の企業さんでは加工できない特殊な加工品が多いですね。特に公差（許容寸法公差）の非常に小さな製品が多いので、常に、どのように加工すべきかを考える必要があります。材料に適した工具や加工条件の選択はもちろんですが、朝と夕方では工作機械の温度も違うので、機械によってはその点も考慮する必要があります。難しいですが、その分「やり甲斐」もありますね。

・・・「やり甲斐」があるって、いいですね！

渡邊：基本的には全部任されている感じなので、最初から最

後まで自分で考えて、良い製品を作る…これが面白いんですよね。それに、ご存じかもしれませんが、こんな面倒な加工をするのは市内でも、そう多くはありませんよ。

・・・ということは、酒井鉄工所は加工技術が高いということですか？

渡邊：自分の会社を褒めるのもなんですが、そう思います。特級技能士や1級技能士などの資格を持った方が多くいますし、私も2級技能士を受験中です。毎日が勉強ですよ。

・・・試験ですか？ 頑張ってください。他にも何かあったら教えてください。

渡邊：マシニングセンターでの加工のほかに兼任で、原子力発電所関連の保守・管理用機械の開発プロジェクトにも携わっています。

・・・プロジェクト〇〇という、テレビ番組のような内容ですね！

渡邊：そうなんですよ。

・・・難しそうですね。

渡邊：だから面白いんですよ。この件については、いくつか教えてもらいに行きますので宜しくお願いします。

・・・テレビに出られるなら…（笑）

・・・話は変わりますが、工科大学からは渡邊君以外にも入社していますよね。

渡邊：はい。みんな元気で頑張っていますよ。

・・・それでは、茂田井洋介さん（2003年3月卒業）、小暮僚平さん（2005年3月卒業）にも合わせてください。それで一緒に写真を撮りましょう！



左から順に、茂田井洋介さん（2003年卒業）、渡邊祐一さん（2004年卒業）、小暮僚平さん（2005年卒業）、酒井伸浩さん（元社会人研究生）

〔株式会社酒井鉄工所
http://www9.ocn.ne.jp/~sakaitec/〕

（聞き手：機械制御システム工学科
助教授 寺島正二郎）

化学工学会の優秀論文賞を受賞



物質生物システム工学科の竹園恵助教授（写真左）と小野寺正幸助教授の共著論文が、9月15（木）～17日（土）に開催された化学工学会第37回秋季大会において、優秀論文賞（Outstanding Paper Award of 2004）を受賞しました。受賞論文は、昨年12月に化学工学会の英文論文誌『Journal of Chemical Engineer-

ing of Japan』に掲載された論文です。

竹園助教授らが開発した高効率の剪断型消泡装置の装置特性を示したものであり、工学的に非常に価値のある研究と評価されました。

論文名：Performance Characteristics of a Stirred-Tank Reactor with a Mechanical Foam-Breaker Utilizing Shear Force.

〔関連URL <http://www.niit.ac.jp/news/2005/acbaward05.html>〕

平成17年度公開講座、全日程を終了

平成17年度公開講座は技術講座、教養講座とも全日程を終了しました。

昨年ご好評をいただいた技術講座・講義編は、今年度も上越市の新潟県立看護大学と提携して実施しました。同大学から柿川房子教授と吉山直樹教授を講師としてお迎えしたほか、同大学の公開講座「サクセスフル・エイジングへの挑戦」に本学の教員3名が講師として出向き相互協力をはかりました。

また、技術講座・実験編は、昨年に引き続き前期・後期の二本立てで実施しました。今年度は受講定員が少なく、抽選を避けて申し込みを控えられた方が多かったようで、少人数での実施となりました。来年度もよろしく願います。

各講座のテーマと受講者数、規定の回数を受講した修了者数は次のとおりでした。

★技術講座・実験編〔前期〕「遺伝子操作に挑戦しよう！」

講師：小野寺 正幸 助教授、竹園 恵 助教授
 6月9日～6月30日（全4回） 本学・物質生物第1学生実験室
 受講者：11名 修了者：11名

★技術講座・講義編「よりよい生活を目指して」

－新潟県立看護大学との提携プログラム－
 講師：村上 肇 教授、深澤大輔 教授、
 寺島 正二郎 助教授
 新潟県立看護大学 柿川 房子 教授
 吉山 直樹 教授

9月22日～10月20日（全5回） 本学・S1大講義室
 受講者：54名 修了者：42名

★教養講座「“アメリカを読む”～人種、ジェンダー、そして文学～」

講師：半藤 正夫 教授
 9月27日～10月25日（全5回） 柏崎エネルギーホール
 受講者：53名 修了者：39名

★技術講座・実験編〔後期〕

「材料の特異な性質と材料試験」
 講師：村山 洋之介 教授、山崎 泰広 助教授
 10月17日～11月7日（全4回） 本学・機械制御第1、2学生実験室 他
 受講者：7名 修了者：7名



〔関連URL <http://www.niit.ac.jp/news/2005/kokai05.html>〕

上越地域産学技術交流会を実施

9月13日（火）に「新潟工科大学・上越地域産学技術交流会」が、上越市のホテルハイマートにおいて実施されました。来場者は100名を超え、本学の研究室を含む20ブースが参加したポスターセッション、技術交流会では、対応する教員の話に熱心に聞き入る技術者の姿が多く見受けられました。

午後からは基調講演会として、布村成具学長、芝浦工業大学・吉久保誠一講師の講演が行われ、講演後には本学の4教員による研究シーズプレゼンテーション、懇談交流会が行われました。



オープンキャンパス・科学の祭典ともに大盛況

今年度のオープンキャンパスが終了し、延べ373名が参加しました。第1回は7月23日（土）に行われ、220名が参加、第2回は10月1日（土）に行われ、153名が参加と、例年どおりの大盛況となりました。

当日は新潟、長岡、直江津、柏崎のほか、第1回目は県外の高崎、長野からも無料送迎バスを運行し、県内だけでなく隣接県からも多くの参加者が集まりました。

希望の学科に分かれての模擬実験体験では、研究室の学生たちが実験・実習の補助にあたりました。一生懸命さが伝わったのか、年齢の近い先輩からの指導は参加者には好評だったようです。

また、第2回目が行われた当日は“科学の祭典 柏崎刈羽大会”が本学講堂で同時開催され、多くの家族連れが「燃料電池を使ってみよう」や「いろいろイクラボトル」などのブースで実験を楽しみました。本学の教員や学生も指導にあたり、佐藤栄一助教授（情報電子工学科）のブースでは愛・地球博帰りの※「雪のモリゾー」に人気が集まっていました。

※「雪のモリゾー」は、雪だるま財団（上越市安塚区）が製作した雪冷房装置で、高さが2mほどあります。胴体には雪を収納し、口元から涼しい風を吹き出します。本学には愛・地球博の役目を終えてから2ヵ月間滞在し、市内の様々なイベントに出向きました。雪は、クリーンなエネルギーとして今後利用が期待されています。（佐藤）



編集後記

今回も、広く学生たちからのメッセージを集めた広報誌となりました。「海外研修」、「職業実習」、そしてクラブ活動と、学生たちが夏期休暇も平日も大いに楽しんでいる様子が伝わったのではないかと思います。さあ、これからはすぐに本学の福利施設設計（新棟建設）に関する学生コンペが開催されたり、年明けには卒業研究の発表会が行われたりと、学内の活気は収まる様子がありませんが、これらについては次号で。また盛りだくさんの内容になると思います！（A.I.）

発行

新潟工科大学広報誌 第8号
平成17年11月20日
新潟工科大学広報委員会

新潟工科大学

〒945-1195 新潟県柏崎市藤橋1719
TEL.0257-22-8111（代表）
FAX.0257-22-8112
E-mail:gakusei@adm.niit.ac.jp
URL:http://www.niit.ac.jp